

東海聖会報

今、立つ恵み

水口 功

創造主、贖い主、きよめ主を賛美します。この度、東海聖会の御用に、ご指名をいただきました水口と申します。この紙面をお借りして、自己紹介をいたします。私のキリスト教との出会いは、3歳の時でした。5歳年上の兄について、当時開拓されたばかりのフリー・メソジスト桜ヶ丘教会の教会学校に、私は導かれました。その後、昨年86歳で召天した母が教会につながり受洗をし、その数年後に、父も信仰を持ちました。そういうわけで、親より子どもが先に教会に導かれ、その後に誕生したクリスチャンホームのもとで、私は幼少期を過ごしました。

小学生時代も続けて教会学校に集っていた私でしたが、6年生の時に「万引き事件」がありました。学校帰りに友人数名と文房具屋に入った時、友人たちは店の鉛筆や消しゴムなどを万引きしましたが、私は「盗んではいけない」という律法が身につけていたので、その盗みに加わりませんでした。その数日後、この万引きが店から学校に通報され、担任の教師に私たちは呼び出されました。その時、はっきり覚えている私の心の中の思いは「ぼくはやっていないのだから、先生に叱られるはずはない」という自信でした。ところが当時大学を卒業したての担任の教師から「見ていたおまえが一番悪い」と叱られました。それ以降、私はその先生を受け入れることができず、憎み続けました。しかしこの事件によって、罪とは何かが具体的にわかり、このままでは幼児の頃からあこがれていた天国に行けないことを悟りました。そして中学1年生の時、ヨハネ1:12の聖句を信じ受け入れて信仰告白をし、多摩川で洗礼を受けました。

高校時代はHi-B-A、大学時代はK G Kでの越教派の交わりで、信仰の先輩や友が与えられ、学内活動を通しての伝道の喜びを経験しま

した。そして進路を求めている大学4年生の時、それまで漠然としていた聖霊の働きを祈り求めるアドバイスを、一人のK G K主事からいただきました。それから4か月ほど続けて祈っていた8月のある日の夕方、家で読んでいたヨハネ20:22の聖句が、私の魂の奥底に語りかけられる経験をし、思わずその場に跪いて「聖霊を受けます」と告白しました。その時、聖霊の臨在に満たされ、翌日、当時の教会の牧師（野田秀師）に、喜び勇んで報告に行った思い出があります。

その後、高校教師として6年間、K G K主事として14年間、東京聖書学院での学びと訓練を経て、2000年から母教会の開拓伝道に遣わされました。牧会に携わってまだ16年にすぎませんが、ここまで主のあわれみにより、多くのみわざを見せていただきました。私がここまで歩んできた道程を振り返る時、幼い時に教会に導かれたこと、そして若い時に超教派の交わりや海外のキリスト者たちと出会えたことが神の恵みの賜物です。そのような中で今現在、改めて「きよめ」が教会と教会の器官である私たち一人一人の成長に欠かせないことを痛感しています。今年の私たちの教会標語聖句は「召されたあなたがたはその召しにふさわしく歩みなさい」（エペソ4:1）です。召してくださった主イエスと共に歩むことは、同じく主イエスの召しを受けた兄姉とも共に歩むことです。人と深く関わっていく時、相手について誤解をしたり、がっかりしたり、させたりという痛みを味わうことです。しかしその時こそが、自らが砕かれ、そんな自分が神に愛されていることを受け取るきよめの恵みに立ち、主イエスへの献身を新たにするチャンスであると思います。主イエスを礎石として「しっかりと組み合わされ、結びあわせられ、成長して」（エペソ4:16）いく望みが、私たちに与えられていることを、お分かちしたいと願う今日この頃です。

（東京フリー・メソジスト教団南大沢チャペル牧師）

沼澤広昭牧師をしのぶ



沼澤広昭牧師は、2015年9月11日(金)に東海市の自宅において85才で召天された。9月14日(月)、自宅において告別式があり、松浦剛牧師の司式で式が進められた。最終奉仕教会である知多教会の信徒、大阪の歌垣教会の牧師や信徒も出席し、ご遺族と共に

沼澤広昭牧師との地上における別れの時を持った。

東海聖化交友会役員であられたのは、2002年4月から2005年3月で、3年間にわたって奉仕された。沼澤広昭牧師は明るい性格であったし、超教派の働きには特に使命を感じておられたため、東海聖化交友会役員としてできるだけの貢献をしたいと願って励まれたように思う。ことにご夫人の沼澤栄子師(1935～2011)が声楽家であったので東海聖会において独唱のチャンスも作られた。

沼澤広昭牧師は、1930年4月に、福島県会津地方の神主の長男として誕生し、小学校教員になられた。その後日本イエス・キリスト教団待望教会に求道し、1949年8月に森山論牧師から受洗してクリスチャンになった。父親はじめ一族からキリスト教信仰を捨てるよう大きな圧迫が加えられ、ひとかたならない苦難の中を通る。が、かえって救いと聖化の恵みが徹底し、ついに献身に導かれた。

1956年3月に関西聖書神学校を卒業し、日本イエス・キリスト教団の6つの教会で奉仕された。京都信愛、黒磯、神戸西部、湯浅、歌垣、知多の教会である。沼澤牧師が奉仕された教会はどの教会も不思議なほどに強化され、神様の栄光が現されていった。

筆者との出会いと交流は、1965年4月からである。沼澤牧師が和歌山県湯浅教会に赴任されて以来である。当時筆者は農学部学生で20才であった。湯浅に実習農場があつて、実習中は農場から礼拝に出席した。その後献身し神学生になり、牧師になりさらに密な交流をいただくようになる。告別式の司式を依頼されるとは思っていなかったが。

松浦 剛 (日本イエス・名古屋教会)

追悼「吉武先生を偲んで」



吉武昭男先生は長い間、日本ナザレン教団名古屋教会の牧師として、またナザレ保育園の園長として労されました。さらに名古屋西地区牧師会でも指導的なお立場を担われたと伺っています。東海聖化交友会ではカメラマンとして写真撮影を担っていただきました。以前、

秋の聖化大会で夜の集会前に、中村公園の料理旅館を会場に講師を囲んでの夕食会が持たれました。その際に吉武先生はニコニコしながらカメラ片手に元気な声をかけて手際よく撮影して下さったのを思い出します。写真の腕前はなかなかのものでした。また先生は長きに渡って会計監査の奉仕も担っていただきました。私が前任者から会計の奉仕を引き継いだとき、「監査の吉武先生は手強いからな」と言われました。恐る恐る監査の日を迎えて、鶴舞の教会へ向かったことです。確かにそれは私が初めて経験する緊張感漂う会計監査でした。キリスト教会関係でなされる監査は、「ごまかしなどあるはずがない」という前提に立った形式的なものが多いのでないでしょうか。しかし吉武先生は、帳簿を角から角までしっかりとご覧になられ、「間違ったら修正液など使わず、赤で二重線を引き、訂正印を押す」ことなど基本的なことを丁寧に指導していただきました。これは先生が保育園の責任者として労されるなかで身につけ、この世の中では当然なされるべきことを教えて下さったのだと思い、感謝しています。毎年会計監査で先生のもとをお尋ねするなかで、いろいろなお話しを伺いました。またナザレン名古屋教会と保育園の建物をご案内いただき、先生の切手やコインなど多彩なコレクションを見せていただくこともありました。「これを息子さんに持って行け」と言って大きな地図をくださったこともあります。吉武先生は型にはまってきたきよめ派の牧師という感じではなく、どこか大陸的な大きな器であったと思います。先生との出会いを感謝し、御国での再会を楽しみにしています。

関 昌宏 (春日井栄光キリスト教会)

第20回遠州聖会 「神の恵みがあなたを変えるー信仰の成長と実践ー」

日時：2016年2月14日(日)午後2:00～3:45

講師：村上宣道師

主題：神の恵みがあなたを変える
ー信仰の成長と実践ー

聖書：詩篇51篇10～17節

全国的に春の嵐が吹き荒れる中、主のご臨在とみ守りのうちに第20回遠州聖会がインマヌエル浜松教会を会場に開催されました。悪天候にもかかわらず167名が聖言と主の恵みを慕い求めて出席しました。

前半には聖潔に関する讃美が会堂一杯に溢れ、聖き主をほめたたえると共に、聖潔の恵みに対する更なる渴きをもって聖言を待ち望みました。また今年も子供たちによる特別讃美がささげられ、天の御使いのような聖き歌声は、出席者一人一人の心に力強く響きました。

讃美に続き村上先生より「四つの可能性」と題して聖言が取り次がれました。

I.失敗、過ちを犯す可能性。神様に召され、主を恐れて歩んだダビデであっても大きな過ちを犯した。私たちも過ちを犯す危険性を持った弱い存在である。

II.聖められる可能性。ダビデとサウル、ペテロとユダそれぞれ大きな過ちを犯したが、その後は全く違った。秘訣は砕かれて聖前に出たか否か、十字架による赦しを信じたか否かにある。血潮によって聖められない罪はない。

III.勝利し続ける可能性。聖霊に満たされ支えられる時、揺るがない生き方が可能となり、“罪と死の法則”から自由にされて、主との隔てなき交わりが与えられ、喜んで仕える者とされる。

IV.証人と変えられる可能性。私たち自身が扱われ、聖霊による自由な生活を送るようになれば、主を証詞しないではおれなくなり、そこに聖霊による救いの業が起こり、魂が導かれて来る。

説教後にそれぞれ聖前に跪き、“ゆるがない霊”を祈り求め、また血潮を仰いで信仰の壇を築きました。アンケートには沢山の恵みの証詞が綴られ、新たに聖潔の信仰に立たれた方や献身を表明(更新)された方も多くあり聖名を崇めました。午前中の風雨から一転して穏やかとなった帰り道、時折り雲間から差し込む光を仰ぎ見ながら、新たな出発を致しました。

(インマヌエル島田教会牧師 浜田耕三)

あゆみの仲間誌

その六

日本ホーリネス教団 蒲郡キリスト教会

〒443-0055 蒲郡市八百富町1-12

電話0533-69-1911

<http://www.jhc.or.jp/gamagori/>

1956年、福音十字軍による天幕伝道で開拓され、その際に「ここに残る」と言った小林亀治師・春江師が初代牧師になりました。1985年に、初代牧師の息子夫婦である、小林光生師・和子師が着任し、この春に、新谷聡一郎師・聖美師に交代しました。

「行ってみたい。あの教会。」との教会標語のもと、市民の1%を信者にする(市内の他教会との合計)ことを目指して伝道をしてきました。さら

に「仕える教会。神に、人に、世界に。」を目標にしています。日系ブラジル人教会との交流が盛んで、合同で運動会などをしています。

当面の課題は、近い将来に教会を担う人材の育成と青少年伝道、そして教会専用の墓地と駐車場の備えることです。



教会と地域の接点を求めて

東海聖化交友会では 毎年2月に総会を開催しています。そして議事後に、メンバーの教職の一人が自身のライフワークなどについて発表し、互いに研鑽し合う時を持っています。今年は2月29日(月)、インマヌエル豊田教会の高山清和師が上記の標題でお話くださいました。

はじめに

ある時、自治区の区長、副区長との語らいの中で次のように言われました。「ずいぶん昔のことではあるが、教会さんの方から地域とは関わらないと言って来られたので、地域住民としてはそのようにしてきました」。一瞬耳を疑いましたが、おそらく神社の祭りごとに関する行き違いに起因するものではないかと思いました。双方に誤解があったとしても、地域の一部の声として考えさせられる出来事でした。

地域というときの範囲

私たちが地域というとき、どの範囲を想定しているのでしょうか。一般的な生活圏(半径4.0km)、小中学校区(半径1.5~2.0km)、自治会・町内会(半径300~500m)のどの辺りでしょうか。教会と密接に関係を築くことができる範囲となると小中学校区レベルが妥当なように思います。とは言っても、実際はもっと狭く町内会レベルでの関わりがほとんどだと思います。小中学校区の方々に教会の所在がどこまで届いているのかと問うと大変心もとないです。何とかして教会の所在を知ってもらいたいとそれぞれの教会で工夫されていることでしょう。

地域を意識するきっかけ

私が教会と地域を意識するようになったきっかけは2つあります。

1つはローザンヌ誓約第5項「キリスト者の社会的責任」です。「われわれは、神がすべての人の創造者であるとともに、審判者でもあら

ることを表明する。それゆえに、われわれは、人間社会全体における正義と和解のために…たしかに人間同士の和解即神との和解ではない。社会的行動即伝道ではない。…しかしながら、われわれは、伝道と社会的政治的参与の両方が、ともにキリスト者の務めであることを表明する。」

伝道を考えるとき、みことばを伝えるという視点に強調が置かれすぎ、社会の諸問題には触れないで来たということはないでしょうか。神によって造られた人に対して、みことばと隣人愛の両面から福音を届けることの必要を覚えま(ヤコブ2:15,16)。それは人を見る見方にも影響し、愛の対象として一人の人を大切にしたいと思います。

もう一つは、私が導かれた教会に身体に障がいをお持ちの方がおられたことです。社会的に弱い立場の方々にも積極的に福音を届ける必要を覚え、関わりが始まりました。その交わりの中で自らが所属する「イムマヌエル総合伝道団」の「総合」に目が留まりました。教団発足時、医務部、伝道部、教育部、農耕部の4部体制で社会全体の各層の必要に応えようとした在り方を今日的に問い直してみる必要があるのではと考えています。





地域の中に生きるクリスチャン

地域の中の教会を考えると、教会が所在する地域とそこに集う信徒の生活圏が違う問題があります。牧師が教会に常駐しているかいないかによっても関わり方は違いますが、教会の周辺の方々にしてみれば、信徒は地域外の者であり、教会側から何らかの行動を起こさない限り、いつまでたっても「よそ者」です。信徒にしてみても自分の生活圏があるわけですから、教会の地域のことまで気が回らないのは理解できます。しかし、この壁を越えない限り、教会と地域との距離は縮まらないでしょう。この距離を縮めるために次のような発想はどうだろうかと考えています。

地域教会との連携

社会は複雑かつ膨大な必要を抱えています。それにどのように向き合ったらよいか悩むところではあります。

一教会が社会の膨大な必要にすべて応えることは無理です。しかし、社会のある部分について責任を持って取り組むことは不可能ではありません。教会は主のからだですから、個々の教会に個々の使命を与えておられるのではないのでしょうか。それが教会の使命やビジョンとなって具体化されるならば素晴らしいことです。そう

することによって、社会の膨大な必要に一つ応えることができます。

そして、各個教会に与えられた各々の使命を持ち寄ると、そこに一つのネットワークが形成されます。例えばある教会は音楽の分野を担い、ある教会は保育の分野を担い、ある教会は福祉の分野を担うというように。各々の使命が合わさることで大きなキリストのからだ構成され、社会の必要に応えることができるのではないのでしょうか。地域の教会が協力すれば実現可能だと思います。現在豊田市では7つの教会が牧師会を構成し、協力関係を深めようとしています。7教会が協力することで、地理的にも7つの小中学校区をカバーすることになり、質・量ともに福音の広がりが期待できます。

まとめ

福音を届けたいという願いは教派教団を越えて同じです。お互いの教会の特色を認め信頼関係を深め、地域に仕えて行きたいです。一教会に与えられた使命を握りながら、地域の教会が協力することで福音は前進していくことでしょうか。以上は机上の理想論かもしれませんが、理想に向かって進んで行きたいと祈る者です。

良い交わりを感謝！ 小林光生

蒲郡キリスト教会で31年間も牧師をさせて頂き感謝！蒲郡は自分が育った所でいわばUターンであった。

蒲郡に赴任してまもなく、東海聖化交友会に入会した。私が副会長をしていた時に、会長をされておられた無関正秀牧師が亡くなられた。そのため、いわばピンチヒッター会長の働きを短期間であったがさせて頂いた。楽しくさせて頂いたという印象が残っている。

今年の4月から岡山県の二つの教会への任命

を夫婦で受けた。私はこの任命をJターンであると思っている。この場合、JはジーザスのJである。一つは倉敷ホーリネスチャーチである。倉敷市は中国地方第三の人口を有する都市で、教会は大原美術館がある美観地区から遠くない。もう一つは久米郡の柵原キリスト教会である。元鉾山の町でありながら素晴らしい会堂や教会員がおられる。

この地方における聖化交友会の交わりにも期待していききたい。良い交わりを感謝！

第20回遠州聖会 訪問記 東海聖化交友会会長 松浦 剛

2016年2月14日(日) 午後に、浜松の地へまいりました。東海聖化交友会遠州支部が主催される遠州聖会が、発足以来20年の節目の年を迎え、わたしは自分が仕えている日本イエス・キリスト教団名古屋教会での礼拝を早めに終え、浜松へ向かいました。

JR浜松駅には、磐田イマヌエル教会の伝道師の方がわたしを迎えてくださいました。そして、ほどなく東区天王町にある浜松イマヌエル教会に連れて行っていただきました。広い駐車場には自動車が満杯駐車されていました。会場の礼拝堂に案内いただくと、子供聖歌隊がリハーサル中で、聖らかな子供の讚美が礼拝堂に響きわたり、感謝な思いとなりました。

20分ほど礼拝堂で静まり、遠州聖会が開会されるのを待ちました。気づくと、既に広い礼拝堂には会衆が満ちておりました。会場教会の牧師である蔦田直毅先生が司会され、第20回遠州聖会は始められました。会衆賛美も子供聖歌隊讚美も、力強さや聖さにおいて遠州の地の聖徒

たちの聖会にふさわしいものがありました。

今回の遠州聖会講師は、太平洋放送協会で長年にわたって奉仕されてきた村上宣道先生でした。2年越しにご奉仕を依頼され、遂に道が開かれて遠州聖会において説教されることになった由。円熟した神の器から聖化のメッセージを承ることができました。放送伝道で奉仕されてきた牧師ですから、どなたにも理解できる説教であり、同時に聖化の奥義とも思える深い、魂のどん底に届くメッセージをお取り継ぎいただきました。

遠州聖会は恵まれる聖会であり、たくさんの会衆を引き付ける魅力にあふれた聖会、と伝え聞いておりました。実際に出席させていただいて、ウソではないことが分かりました。イマヌエル総合伝道団、ウェスレアン・ホーリネス教団、日本ホーリネス教団、森聖泉キリスト教会、日本イエス・キリスト教団他の諸教会が参加協力しておられると聞いて、み名を崇めたことでした。ハレルヤ!

小林重昭先生訪問記

2016年10月21日(金)、日本イエス・キリスト教団名古屋教会において、聖化大会第2日目の聖会が午後の時間帯に2回開かれる。その聖会の講師が小林重昭師である。

2016年3月7日(月)に東京御茶ノ水クリスチャンセンターにおいて、日本聖化協力会評議員会があった。東海聖化交友会から松浦剛1名が出席した。主に2016年度の日本聖化協力会の行事計画と予算について話し合われた。

評議員会が終了して、そのまま川崎ホーリネス教会へ行き小林重昭師を訪問した。教会には80~90名が収容できる落ち着いた礼拝堂があった。ご夫人のご両親が長く伝道牧会された後を引き継いで、小林重昭師が奉仕されて今日に至ったとい

う。

さっそく、10月21日(金)の聖化大会の中での日本人講師を迎えての聖会の目的や意味を説明させていただいた。すると、よく理解できたので、ご奉仕の準備のために幸いであった、と大変喜んでくださった。

2010年に書かれた博士論文「日本ホーリネス教団(教会)の宣教の歴史とその展望」についておうかがいした。20年の学びを重ねて執筆ができて感謝だ、と感想を聞かせてくださった。そのようなことから、10月21日の名古屋での奉仕は、「聖化と宣教」のテーマでお願いすることにした。お訪ねして、交流が与えられ、10月の聖化大会への期待感が持てた。ハレルヤ!(松浦 剛)

本の紹介

ジョン・N・オズワルト著 「聖き」を生きる人々

～旧約聖書から新約聖書へ「聖」の探求～

「天国は福音の中心ではありません。この世界での私たちの生き方が変えられること、その上で永遠が与えられること、これが最も大切なことなのです。」2015年10月の東海聖化大会、聖会の合間にオズワルト先生がつぶやかれたこの一言を聞いて、迷うことなくこの本を購入しました。それは本当に短く、小さなお声で言われた一言であったのですが、忘れることのできないチャレンジとして響いたからです。

ともすれば、この世での生活や地上における生き方よりも、やがて来る天国の慰めにばかり注目してしまいやすい私たちのクリスチャン生活ですが、旧約学をご専門としておられるオズワルト先生のこの本は、ほら、目を覚ましなさい、と言うかのように、私たちの目をこの世界とや 現代、そして、今日の私たちの魂の状態へと引き戻してくださいませ。

この本では、旧約聖書から、神様がイスラエルの民にもっておられた救いの計画が、約束の地に入ることよりも何よりも、まず「聖」なる者とされ、聖なる神様との交わりにあずかる者とされることであったことが語られます。

そして、新約聖書からは、私たちの能力によってではなく、ご聖霊の満たしによって、キリストのお

姿を現していく聖なる生活について語られていきます。そのようにして、具体的に聖なる生活とは何か、それをどうすれば味わうことができるのか。さらに、最後には、聖きを歩む人の姿や避けるべきことがわかりやすくまとめられています。

冒頭で語られたおことばはこの本のアウトラインだったのだな、と思いながら、感謝の思いを持って読み進めさせていただきました。そしてこの本から、生涯での聖化の恵みについて、まるで一緒の食卓を囲んでいる中で先生がやさしく話しかけてくださっているかのように、心に届く形で思い巡らさせていただきました。

上にあるものを求めることはもちろん、やがて来る栄光に比べればこの地上の苦しみは取るに足らないと慰められることは大切です。しかし、一度きりのこの地上の生涯で、世で生きている間に、この私という人間が聖められた生き方をして、神様との交わりを深めさせていただく恵みがあるのです。「天国が福音の中心ではありません。」そう語られた先生の聖への思いに、私も地上であずかりたいと渴く方がおられましたら、初めて聖化について考える方であっても、信仰生涯の長い兄姉であっても、この本をお薦めしたいと思っています。(古田大展)

本の紹介

聖化の説教【新約】牧師24人のホーリネス・メッセージ

「聖化の説教」は日本聖化協力が聖書全体から聖化のメッセージを聴こうと全3巻で企画した説教集で、本書はその完結編です。

旧約1では松浦剛会長、旧約2では筆者が寄稿しましたが、新約編では東海聖化交友会に属する3人の牧師たちの説教が収められています。関昌宏師 エペソ人への手紙2:11～22

「キリストこそ私たちの平和」

秋山直光師 ペテロの手紙第二1:1～11

「あらゆる努力をして」

篠澤忠俊師 ヨハネの手紙第二

「ヨハネによる『全き喜び』」

私自身は普段あまり説教集を読まないのですが「聖化の説教」は単独の著者の説教集ではないこと、著者達の所属教団も多数であること、

対象となっているテキストは創世記から黙示録まで聖書全体にわたっていること、しかしすべての説教が『聖化』の恵みに焦点を合わせていること、というたいへんユニークなものとなっています。

関師は戦後70年と安保法制を意識しつつ聖化と平和を説きます。秋山師はきよめのプロセスを説き、その目的があいであることを明らかにします。篠澤師は第二ヨハネの構成・原語の意味なども解説しながら福音による全き喜びを解き明かしてくださいませ。ぜひ手に取ってお読みいただきたいシリーズです。(石田聖実)



23th 東海聖会



講師 水口 功師

講師のプロフィール

1957年東京の多摩村（現多摩市）生まれ。上智大学、東京聖書学院卒業。
桜美林高校社会科教師、キリスト者学生会主事、桜ヶ丘教会伝道師を経て、
南大沢チャペル牧師に。また現在、YMCA一橋寮聖研チューター、明治安田
生命聖書研究会顧問、南大沢地域の青少年育成指導員も務めている。

とき

6 | 25 土
2:30PM

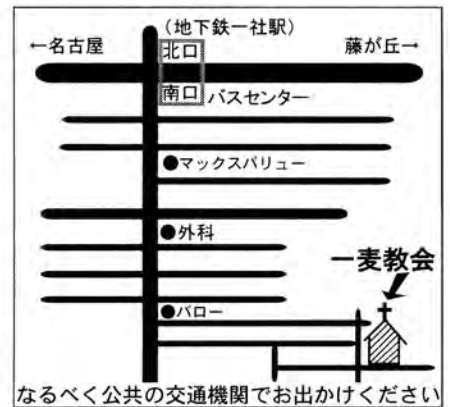
26 日
2:30PM

25日(土)は子供集会があります(無料)。

ところ

活けるキリスト
一麦教会

名古屋市名東区亀の井2-102
☎ 052-701-4221



東海聖化交友会

〒453-0053 名古屋市中村区中村町7-46福音センター
問合せ(書記) / ☎ 0562-97-6468

10月の聖化大会にもご期待ください

10月の聖化大会は、今年も2日間の日程で行います。

1日目 10月20日(木) 14:30、19:00

講師 ジョアン・ライアン師

会場 福音センター

2日目 10月21日(金) 13:30、15:30

講師 小林重昭師(川崎ホーリネス教会)

会場 日本イエス 名古屋教会

ぜひ、お出かけください。

今年度の役員会構成

会長 松浦 剛師(日本イエス・名古屋教会)

副会長 秋山直光師(中京聖泉キリスト教会)

書記 古田大展師(活けるキリスト 一麦教会)

会計 関 昌宏師(春日井栄光キリスト教会)

学び 篠澤忠俊師(ナザレン・名古屋教会)

新田栄一師(ホーリネス・名古屋城北教会)

高山清和師(インマヌエル・豊田教会)

川津良知師(基督兄弟団・名古屋教会)

広報 石田聖実師(日本基督教団・鈴鹿教会)